こんな本を読んでみました

タイトル　ぼくの、ミギ
著　者　作：戸森しるこ　絵：アンマサコ
発　行　講談社

くつ下が何故か片方だけ行方不明になった。何故こんなところに片方だけ？という経験が一度はあるはず。

冒険が大好きなくつ下の「ミギ」が行方不明になってしまい，相方の「ヒダリ」が探しに行くというお話。「ヒダリ」だけでも長く生きのびてほしくてこっそりいなくなったのに，強がる姿が「ミギ」らしくて「ヒダリ」はほっとしながら笑ってしまいました。やっぱりくつ下は，ふたりで一足！離ればなれにならないように，しっかり一緒にしておいてあげたいですね！

この本を読むと，身近にいるくつ下のかたわれのような人の大切さに気付きます。

呉市と関わりのある作家や事柄の所蔵資料を紹介します。

郷土資料

タイトル　時代考証家が行く瀬戸内海の島探訪「せとうち津々浦々」
著　者　山田順子
発　行　徳間書店

著者の山田順子さんはドラマ「この世界の片隅に」の時代考証を担当された方です。実際に瀬戸内海の島に訪れ，写真はすべて著者が撮影されたオールカラーページの探訪記です。

遣唐使船を造船した倉橋島，多賀谷海賊の本拠地「丸屋城」があった下蒲刈島など，多くの船が島に停泊するようになり栄えた時代や，たくさんの海賊が海を守っていた時代の爪痕を，ひとつの島のエピソードを読む度に著者と一緒に探しながら旅をしている気分になれました。瀬戸内が舞台のドラマや映画のロケ地探しの裏話なども楽しめます。

この本をきっかけに瀬戸内海のさまざまな島を訪れてみたくなりました。岬の先端で風向きを読めば気分は海賊！